
宝玉!(ほうぎょく)使い

おはぎ大好き

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

宝玉（ほづきょく）使い

【NZコード】

NZ8346L

【作者名】

おはぎ大好き

【あらすじ】

「ここは、セイジエントと言つ世界。ここは、ちよつと変わつた世界。科学、魔法とは違う力がある。その名は・・・・・宝玉（ほづきょく）・・・・・」

その宝玉はいつからこの世界にあつたのかは、誰も知らない。ただいつの間にか人々のそばにあつた。

宝玉は、人の心に反応し人に力を与える。しかし、人間全員が使えるわけではいかなかつた。

その力を使う人達を、皆は「宝玉使い」と言つた・・・・・
宝玉はたちまちに暴力となり、世界で争いが起きた。だが、全部が
そうではなかつた。

闇玉（やみぎょく）戦争、これは闇の宝玉を手にした一人の人間
が自らの信念のために起きた戦いだつた。最初は一人の戦力だつた
が、その力に魅入られし者達が集い、大きな、そして世界を支配す
るほどの力を持つていつた。その組織の名を「黒の世界」。その組
織はあつという間に世界の平和を揺るがした。人々は恐怖を抱いて
いた。

しかし、そんな時に立ち上がつたのが「自由な世界」と言うグル
ープだつた。そのグループと世界全体のレジスタンスや国が協力し
て「黒の世界」との戦い多くの人達と一人の勇者の犠牲に終わつた。
・・・・・

これは、そんな悲しい戦いが終わつて八年後の世界の物語。世界
が平和になつて人々は笑顔に日々を過ごしていたある日、黒い影が
再び動き出す・・・・・

第0話 再び交じつぐの運命（前書き）

皆さん初めまして、おはぎ大好きです。
はじめての小説で緊張しています。
おもいっしきの初心者なので、マルイ田で見守ってください。

第0話 再び交じり合つ運命

今はアズガント暦2315年、亞紀（あき）の季の始め頃なの。この季節は嫌いじゃないのだけど、どうも肌寒いのでいやなのよ···

···あつ！、「ごめんなさいね、私はルキ。

ルキ・ローウェン、ローウェン家の一人娘なの。あく、貴族つていえば貴族に違いないのだけどね···。

八年前に出来たばかりの貴族なのよ。八年前といと、誰もが知っている「闇玉戦争」があつた時ね。

あの時に私の父上のラキ・ローウェンが戦争で「自由の世界」の人達と一緒に戦つて、すばらしい戦果をとつたのだが、当時十歳の私は母上と一緒に非難していたから詳しくは知らないけど···。

? ? ? 「ルキちゃん？ ルキちゃん、何処なの～？」

ルキ「ここよ、母さん！」

あ、タイミングがあつたで紹介するけど、この人が私の母のルン・ローウェンね。少し？おつとりしてると、しつり物事を見ている人で、とても綺麗は人よ。

ルン「ああ、ここにいたのね～ 探したわよ～」

説明補足するけど、なぜかとてもいいタイミングで現れる私の中の「不思議な人ランキングNO.1」だつたりします···。我が母ながらつかめない人です。

ルキ「それで、どうしたの？」

ルン「ちょっとお買い物に行つてきてほしいの～」

たまに人の意見を聞かずに、物事を決めます・・・・・・

ルキ「はあ～・・・・分かつたわ、何を買つて来たらいいの?」

ルン「あのケーキ屋のケーキを買つて来てほしいの　　あ、種類はガルバケー キね～。」

ルキ「ガルバケー キ? お客様が来た時の出すケーキじゃない?」
そして結構高いのだ・・・・・

ルン「そうよ～、ラツくんから聞いたの　　これからとてもスッゴイお客様が来るつて～。」

ルキ「ふうん。いいわよ。(スッゴイ?)」
ちなみに、ラツくんとは父のコトだつたりする・・・・・

ルン「なんでも戦争の時に世話になつた人とか言つてたわ～」

ルキ「戦争の時(まさか「自由の世界」の人じゃ・・・・・なわけないか)・・・・・・

分かつたわ。それじゃ行つて来ます。」

ルン「ええ、お願ひね～」

- - - - - 数十分後 - - - - -

店員「まいどありがと(づ)ございました。」

ルキ「ええ、ありがとうございます。」

これでよしと・・・・・今私は母上からの頼みであるケーキ屋のケーキを買ったところで、今から帰ろうとしているわ。あ、説明し忘れてたけど私たちが暮らしているこの町はランバルドと言つて八角形の城壁に囲まれた町なのよ。結構高い城壁に囲まれていて魔物に襲われたことが無いのだと言つ。ま、眞実は分からぬけど、いい町である。道ばたを歩けば人にぎわいでいつぱいで笑顔があふれている。けど、戦争時はとてもひどかつたとか・・・・・・。ここまで平和になつたのは「自由の世界」と皆のおかげである。私は会つた事がないけど、とても正義感あふてたいい人達だと思うわ。戦争時は非難で城下町に逃げていたのよね・・・・・・あ・・・・・思つ出した・・・・・・

ええ、あれは八年前の戦争の時……私は城下町に非難して町をウロウロしていた時だつたわね。その時は私は十歳だつたから不安で仕方なかつただと思う。不安がイッパイで落ち着けなかつた。それで、ボート歩いていたら男の子にぶつかつた……。

ルキ「あ。ご、ごめんなさい・・・」

私はすぐに謝つたわ。でも、あの子は・・・・（怒）

男の子「前を向いて足で歩け」

それだけ。それだけ言つて歩いて行つた・・・・・・・・・・
何なのよ！ 確かにぶつかつた私が悪いと思つけど、あの言い方は
酷いじゃない！！！！

ま、まあ、その子のおかげで少しあはマシになつたのだけれど……
か、感謝なんて、してないからね……！ 本当よ！……………
・・・早く帰るわ・・・・・・・・

と前を向いた時だった。

「ゴン……！」

ルキ「あ、いた！……！」

ぶつかつたのだ。どこのマンガよ！……考え事をしていく人にぶつ
かるのなんて！！

あ～！恥かしい！！ でもケーキは無事だった。そこは良かつた
わ・・・・・・・・
あ、謝らないと・・・・・・

ルキ「「めんないせい、少し考え……事……して……い……て……
・・・」

ぶつかつた人を見るとあの時ぶつかつた男の子に似ていたのだ……
・・・そして……

？？？「前をむいて足で歩け」

そり、まるで八年前と同じ……これは運命なのだろうか・

・・・・・・

ここから、私の物語が始まった……

第0話 再び交じり合ひの運命（後書き）

いや～緊張しました。

やつとプロローグ完成？です。

汗だくですよウチ・・・・・・

まあ、これからじょじょに慣れてこいつかと思します・・・・・・

では、次回

再び出会った二人。その時突然、門のほうで爆発が・・・・・・

ど「つそ」期待ください

第1話 八年前の亡靈（前書き）

はあ・・・・・・・・・・・・・
いきおいで始めてしまった小説です・・・・・
いつまで続くか心配ですが、頑張つていこうとおもいます

では、本編をどうぞ

第1話 八年前の亡靈

今私の目の前に信じられない光景が見えています・・・・・・・
あの子だ、ぜつたいそうだ。見間違える事が出来ない黒髪に黒の瞳・
・・・・・・・そして・・・

八年前と変わっていないどこか儂げな雰囲気、あの時の男の子だ。
でも、変わっているところもある。それは、一番気になるのが顔の、
いや右目に入っている一筋の傷。

額から頬の真ん中まである一本の縦傷、少し幼さが残る可愛いやう
な綺麗なような顔にある傷・・・

なんか、この傷を付けた奴を無性に殴りたい・・・・・こんな人の
顔に傷を付けるなんて・・・・・

一生残つたらどうするのよ・・・・・・・はつ！！

な、なんで怒つているのよ私！？べ、別に深い意味は無いのよ、絶
対そうよ！！年下なんか眼中にないわ！！・・・・・ん？年下
？？八年前は私と同じくらいの背たけだった、今同じの十八歳
なんじやないのかしら・・・・・はつ！！だから、なんでこの子の
年なんか気にしてるのよ私！？

確かに同じ十八歳なら背は低いほうだけど・・・・・あ～！～なん
でこんなに気になってるのよ！？

ま、まあいいわ・・・・・兎に角、まずは話をしないと・・・・・

ルキ「つて、いない！？」

いつの間に・・・・・？いや、私が一人で考え込んでいたからか・
・・・・・・・・・
あ～も～、せつかくのチャンスだつたのに！・・・・・ん？チ
ヤンス？？なんで？？

- - - - - ? ? ? - - - - - - - - - - -

さつきの女人の人、いつたいなんだつたんだろう？僕の顔を見てかた
まつて・・・・・・・
まあ、いいか・・・・・・・今は戦友に会うのが先だな・・・・・

でも、さつきの女に人・・・・・何かひつかかるな・・・・・

THERMODYNAMICS

? ? ? 「！」

爆発！？門の方からか！？

仕方なし 行くか

- - - - - ルヰ - - - - -

三

さつきの人から別れていったん家に帰っている。探しても見つから

なか二たのたかに仕方なしれ

— — — — — T_v

ルキ「！？」

爆発!? 何かあつたのかしら? • • • • • 急いだそうがよさそう
ね

- - - - - 門前 - - - - -

？？？「あははははは……最高だぜ～！～～！」

何あの男！？デカイ！？しかも、右手は見た事も無い武器を装備している・・・・・・

あの武器で門を壊したのかしら？あの両腕は義手かしら、でもあんな大きい義手なんて・・・・・・しかも、その先端には船のイカリ見たいなデカイモノがある・・・・・・！？あのイカリの中央にあるのって、まさか宝玉！？

ルキ「やめなさい！～！」

？？？「あ？なんだ女、この俺様にケンカつるのか？」

ルキ「いきなりケンカうつてきてるのは貴方じやなつかしり？」

？？？「はつはつは～！～！確かにそうだな！！俺がうつてるな～！」

何コイツ・・・・・・素人じやない・・・・戦いを経験して來た者的眼だ・・・・・・

？？？「おう？ビうした？恐いのか？」

ルキ「つー！誰が・・・・」

一般兵「そこまでだ！！！！大人しく武器を捨てて投降しろ！！

!—「

!—一般兵!—ダメ!—

ルキ「いけない逃げ「い」かや「い」かやと「・・・?」

?・?・?「しゃしゃり出て来るんじゃね~!—!—!—!

ドン!—!—!—!

!—?イカリが飛んで・・・・・・・・

一般兵「ぎゅああああああ!—!—!—!—!—!

?・?・?「俺様の邪魔するんじゃね~!—!—!—!

ルキ「つ!—!—!—!

あの距離から一発で数人をいつぺんに・・・・・・・・

ルキ「あなた、いつたい何者なの!—?」

?・?・?「お!—!—!—!—、その質問をまつていたぜ~!—!—!—!

ルキ「何笑つて・・・・・」

ガンサ「俺は「黒の世界」のガンサ様だ~!—!—!—!—!

え・・・・い、今なんて・・・・・・「黒の世界」・・・?

八年前のあの?

ルキ「嘘よ…………」

ガンサ「あ?」

ルキ「嘘よ!…だつて「黒の世界」は…………」

ガンサ「ああ、そうさ。俺ら「黒の世界」は八年前に倒された……
……だか!!俺達は蘇った!」

そ、そんな……あの悪夢がまた、始まるの……
世界が恐怖でいっぱいだったあの時に……

ガンサ「とりあえず…………」

!!??何時の間に目の前に…………マズイ!!!!

ガンサ「死ね!!!!」

イカリが残つていた方の腕を振り上げて、そして……
……

ブン!!!!

振り下ろした…………ああ、私は死ぬのか…………短い
人生だったな…………父様、母様…………ごめんなさい…………そして、八年前に
会つた男の子…………また話したかつた…………

ガキン！――

?痛みが無い・・・・・?それに何金属音?

私は、おそろおそろ目を開いた。そこには・・・・・・

? ? ? 「あれ?また会つた・・・・・・・・・・・・

イカリを細い剣で受け止めいていた。

あの、男の子の姿があつた・・・・・・・・・・

第1話 八年前の亡靈（後書き）

- ふ、とつあえずここまでです。次回はバトルに入ります・・・。
- あ、緊張するよー！でも、頑張ります！！！
- 宝玉の使い方や、説明は次回の次を使って話しますので、もう少し
お待ちください
- では、また次回に会いましょうー！！

第2話 八年前の少年（前書き）

今回は、前回言つたとおりにバトルになります。
バトルの描写は上手くないと 思いますから、勘弁してください・・・
では、どうぞ。

第2話 八年前の少年

ガンサ「てめえは・・・・・」

少年
—

あの男の巨大なイカリをあんな細い剣で受け止めた！？あんな武器

見たこともない……。

少年「立てるか?」

ルキ「え？」

少年「立てるかと聞いているだけ?」

ルキ「え、ええ。立てるわ」

私を心配してくれているの？もしかして、私を助けに来てくれて・・

少年「なら、下がつて邪魔だから・・・」

いたのかな・・・？思いつきり邪魔者扱いですか・・・。
・でも・・・・・

ルキ「わ、分かつたわ。」

「おまえはぬいとおつにしたほうがここにわね……

ガンサ「おいおい、なんだよてめえは？あの女のコレか？」

なんて言いながらイカリを立てる・・・・・あ、指が無いからか・
・・・・て！？

か彼女！？いやそんな！！私達出会いでそんなに経てしないのに・・・・あれ？

かの他人という訳ではなくて・・・
て！？何を言つてるの私！？

少年「違う。」キツパリ

あれ？何か目から塩辛いモノが…・・・・・・・

ガンサ「なんだ、違うのかよ。なら他人だな。なぜ、他人なんか助けるんだ？」

少年「別に・・・・助けたかつたから・・・・」

ガンサーお、お・・・・正義の味方気取りか小僧が？」

少年「君の街に正義なんて言葉はない・・・・」

ガンサーあ?ならなんだよ?」

少年 - 自由なだけだ

ガンサ「！？」

あれ、男の顔つきが変わった？

ガンサ「おい・・・・・その言葉は誰から聞いた？」

少年「・・・・・・・・・」

ガンサ「その言葉はあの時のガキのセリフだ・・・・ぞ・・・・

！？男の様子がオカシイ！？いきなり殺氣が溢れて・・・・・・

ガンサ「お前は！？あの時のガキじゃね～か！？」

あの時？

ガンサ「八年前に俺の両腕をぶつた斬りやがった、あのガキか！
！！」

八年前！？え？じゃあ、あの子は戦争に参加していたの？そんな事を思いながらあの子を見ると・・・・

少年「？」

首をかしげていた・・・・・・・・・あ、かわいい・・・・・・・・じゃなくて
！！！

憶えてないの！？あんなにインパクトありそうな男を！？

ガンサ「そうか・・・やっぱてめえか・・・・・

よく見ましょ～！～あの子、思いつきり知らないって顔してるわ

よ！――何一人で納得してゐるのよ！――

ガンサ「てめえには恨みもあるけどな、感謝しているぜ・・・。
なんせ、てめえが俺の腕ぶつた斬ってくれたおかげで、こんなすげ
え腕がてにはいつたんだからな！！」

あ！？町の兵士たちに飛ばしたイカリが動いて！？

ルギー危ない！！間に合わない！！！

ガキン！！！

ルギ&ガンサー

私がイカリを再び見た時には、イカリが真つ一つに切られていた・・・

ガンサ「て、てめえ！！」

男がイカリが残つてゐる片方の腕で攻撃をしてきた。でも、なぜか安心していた。あの子が負けないとなぜか確信していた・・・・・

少年「居合」

「うおおおお～！～～！」

少年「彼岸花」

ガンサ「！？」

ルキ「え？」

何？あの子はさつきまで男の目の前にいたはずなのに、なんで……

ガンサ「いつの間に後ろに！！」

男が振り向甲とした時・・・・・・

チン・・・・・・あの子が剣を鞘に入れた。とたん・・・・・・

ブシャ――――――――

ガンサ「がつ！――！」

男の身体から血が噴き溢れた・・・・・まるで花のようにな・・・・・

ルキ「綺麗・・・・・」

そう思つてはいけないのだと分かっている。あれは血で、人から
出でいるからだ・・・・・でも、
なぜかそう思わずにはいられなかつた・・・・・・・・

ガンサ「く、くそガ・・キ・が・・・・・・・・」

ドサツ――――

少年「ガキじゃない、

・・・・・デイルだ・・・・・

デイル、それが私が出会った男の子の名前だった・・・・・・・・・

第2話 八年前の少年（後書き）

とつあずここまでで勘弁して下さー……！（土下座）
今の自分の限界？だと思います・・・・・ほんとです！！
やつと主人公の名前を出せました。あ～スッ キリした～。
あ、 は別にミスした訳ではありません。その意味は結構しない
と分からないとしますので、頭の片隅にでも置いといてください。
・・・・・

さあ、次回はこの世界で戦いのカギをにぎつてこる主役のや世界の
説明をいたいと思います。しかし、私だけでは皆さんもつまらない
と思いまして、特別ゲストに登場してもらいます。そのゲストとは・
・・

? ? ? …ウチらりやで～！！

あ、かつてに出でこないでください～！！

? ? ? …次回まで暇だからしかたないやん～！

威張らないでください～！！

? ? ? 2 …でも事実・・・・・・

? ? ? 3 …すまないな、俺では止められなかつた・・・・・

あ～、気にしないでください・・・・・僕も半分諦めていますから・

・・・

? ? ? 3 · スマン · · · ·

いいですよ···では、次回はここにいる四人でおつかいします！！

? ? ? · 楽しみにしといてなー！！！

? ? ? 2 · · · · · · · ·

? ? ? · 何か喋るつ！？

? ? ? 3 · 「イツはアイツ以外の前じや いつだらつ···で
は、次回で会おう。

大丈夫かな··· · · · ·

影の時間 その壱（前書き）

暇だったので、一日で一話仕上げていこうと思います。

? ? ? … むりしゃへ… … 出番や… !

まだ前書きですよー!?

? ? ? … 気にするな… … (親指立てる) (効果音付き)

もー、何でこんな人創ったかなー… !

? ? ? … ギャグ要員やろ?

影の時間 その壱

皆さん、こんにちわ。まだ駄目駄目小説家のおはぎ大好きです。さて、今回はこの小説「宝玉使い」にてくる宝玉の説明や使い方、またこの世界について話していくうと思います。さて、前回の後書きや今回の前書きにていましたが、ゲストを紹介します。まず一人目は・・・・・

？？？「わ～はははは！…ついにウチの時代がやつて來た～！」

「！」

一人目は・・・・・

？？？「セイジュントがピンチの時に何処からともなく現れる、とても頼れるす”こ”ヤツ！…！」

・・・・・・・・・・・

？？？「顔に付けた金色に輝く仮面が語るのは世界の理……そうウチ・・じゃなく我こそは～！」

・・・・・・・・（手榴弾片手に持つて

？？？「セイジュントに轟き参った雷の使者…！」　ピン（安全ピンを抜いた

稻妻仮面「稻妻仮面…！　ただいま参上お～…！…！」
　　^{トイ}

ドカーン…！…

大変見苦しいものを見せました。気を取り直して、二人目～！！！

蒼氷仮面「蒼氷仮面・・・・・・・・」

・・・・・・・え～、三人目どうぞ～・・・・・

獄炎仮面「あまり気が進まないが、獄炎仮面だ。よろしく頼む。」

獄炎仮面大好きです・・・・・・・

獄炎「オレにそつちの趣味は無いぞ」

こっちにもないわ！！！・・・・・え～、気を取り直していきます。
まず、何でゲストの名前がこうかと言つと、本作品でも出でくる旧
主要キャラだからです。

ネタバレを防ぐ為の工夫ですのであしからず・・・・・・・
では、さつそく本題にいきましょう。最初の議題？は「宝玉」につ
いてですが

稻妻「死ぬか思ったわ～～！」

ち、復活しやがった・・・・・・

稻妻「酷くない！？ウチの扱い酷くない！？ねえ！？」

獄炎「自業自得だろ。」

蒼氷「同意・・・・・・・・」

稻妻「ウチの見方は読者の皆様だけや～！～！」

もう、話しが進まないからいくよ、獄炎、蒼氷、ヴァルク。

稻妻「ちょっと～～～～～何名前言つてるんの～～～～仮面の意味ないやんか～～～～」

では、宝玉についてです。 稲妻（無視ですか・・・・・・）
宝玉とは球状の形をしていて、それを武器か防具などに付けると効果を発揮するモノです。

稻妻「便利だよね～。」

獄炎「そつだな。宝玉の効果には色々あるが大きく一つに分類されている。」

蒼氷「基玉と属玉・・・・・・」

獄炎「そう。その二つに分けられ、基玉とは
攻・坊・速・伸・飛・回・具・放 の八つがある。」

稻妻「これは一般的に出回つていて、コソヒセえ分かれば誰にでも仕えるモンや。」

獄炎「そして、属玉だが。これは一般に出回るモノではなく、自然と世界に現れるモノらしい。」

蒼氷「効果は色々・・・・・・」

獄炎「その通りだ。これは数がいくつあるかは未だに不明だ。そ

の種類は多種多様で、例えば・・・そうだな・・・火、風、水などは自然の力で自玉と言われいる。」

稻妻「他に毒や爆、武なんかは人工的に作られたモンは外玉つて
言われてんのや。」

蒼氷「他には分類が難しいモノがある・・・・・」

獄炎　ああ。それはオレも見たこともない。いや、誰も知らない。

1

稻妻「噂やと一回あつりやう詰めし。」

蒼氷　一百年に一回だけ生まれる・・・・・・・

獄炎「まあ、そんな噂が堪えないモンだな。おつと、話が逸れた
が自玉は持ち主を選ぶと言つ。」

稻妻一 そうやな。 実際ウチら以外使えんか? たしなう。

蒼氷「（コクコク）」

獄炎「そのために基玉とは比べ物にならない程の力を与える。しかし、基玉も使い方次第で強くなれるからな。相性の問題もある。」「

蒼氷 一でも、強い・・・・・

稻妻——そうやな。でも、その力の源は人の心や。

獄炎「そう。想いが強ければ強いほど力を持つ。これはヤツの戦

いを見て分かつた事だな。」

稻妻「 そうやな。アイツはたいしたヤツだったな。 そして、そのツレのあのガキもな（笑）」

獄炎「ああ、あの一人には色々と教わったな・・・・・。」

稻妻「あー、蒼氷帰つてこい!」

蒼冰

獄炎「蒼氷はアイツのおかげで生きる意味を持つたのだ。まあ、仕方ないだろ？。」

稻妻「そ、うやな。」

で、宝玉ですが大きさは五百円を球状にした位の大きさです。使い方は武器や防具、そして道具に穴を開けてそこにはめればいいのです。

稻妻「おおーーいたんか作者・・・・・」

いたよーーー最初からいたからねーーー

獄炎「スマン。忘れていた・・・・・・・・・・・・」

あ、いいよ 楽できたもん

稻妻「あんた最低や！－！」

なんとでも言うがいいわ－！」

獄炎「穴を開けて付けるのだが、最初から宝玉が付いている武器なども売られている。あまり多くはないがな。」

稻妻「そいやな。で、基玉の効果についてやけど···」

攻は攻撃力、破壊力が上がります。坊は防御力や、硬さも上がります。速はスピードが上がります。
伸ですが、これは伸びて長さが変わります。回は回復で、傷を癒します。

獄炎「だが、回の玉は人を慈しむ心が強ければ強いほど、力を發揮して病気も治せるようになる。」

稻妻「やけど、そこまでできるヤツは世界に五人ほどもいないんや。」

蒼氷「でも、私達の仲間にはいた···」

それ、ネタバレに繋がりますよ蒼氷···

稻妻「お約束や。」

獄炎「効果の説明の続きだが、飛はモノを飛ばす事が出来る。まあ、言い換えれば操れる事が出来るので、操の玉とも言われる。」

前回で出てきたしね。具は具現化で、宝玉に使う心のエネルギーを

形にする事ができます。一般に矢に具現化しますね。

稻妻「最後の放やけど、これは放出でエネルギーをそのまま飛ばせるねん。」

獄炎「放出し続けるのはきついがな。」

ふつ、まあこんなもんでしょう。世界觀はまた次につと忙い事で・
・・・・・

稻妻「また説明しないといかなくなつたら。ウチをよぶんやで（
キラーン）」

もつ呼びたくない・・・・・・・・・・

獄炎「まあ、また呼んでくれ。中々楽しかったぞ。」

むちりん!! 稲妻「ひどい……。」

蒼氷「また・・・・・・・・」

え、ええ、またです。（からみずらい

では、長々と語つてしまつてしません。最後まで見ててくれた人に
感謝の言葉を贈ります。
せーの、

「」「「ありがとうございます。」」

影の時間 その壱（後書き）

あ～、疲れました・・・・一気に書きました。

本当に長々とかいたので、読んでくれて人ありがとうございます。

ここで、キャラの容姿についてですがすべてティ○ズからとりました。

ディル・TOOからリオン君の少し背を小さくした版
ルキ・TOのクロエの髪が青色版で貴族のお嬢様っぽく
稻妻仮面もといヴォルク・TOSのゼロスで髪が黄色版性格はMA
Rのナナシ的

蒼氷仮面・TOAのティアで、片目が隠れてなく髪の色は白
獄炎仮面・TOVのレイヴンのシユバーン版で髪が赤

こんな感じです。分からない方は調べて見てください。ティル○です。

では、今回はここまでとします。

See you next time

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8346/>

宝玉!(ほうぎょく)使い

2010年10月10日02時38分発行